



# 取扱説明書

セット動噴  
(自動整列巻取付)

**G S L 2 0 5 - H**

**G S L 3 0 5 - H**

ご使用になる前に必ずお読みください。  
いつまでも大切に保管してください。

# はじめに

このたびは、丸山製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検方法について説明してあります。

ご使用の前によくお読みいただき十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮できるように、この冊子をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保存し、分からないことがあった時には取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した「安全作業説明書」を別冊にして添付しておりますので、合わせてご活用ください。

本製品についてお気付の点がございましたら、最寄の販売店又は当社の営業所にお問い合わせください。

## ■注意事項について

●本書に記載した注意事項や機械に貼られた ▲ の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要項目です。よく読んで必ず守ってください。

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

▲ **危険**…もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。

▲ **警告**…その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。

▲ **注意**…その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

**注意**…その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

## ■使用範囲について

●本製品は〔農業における病害虫に対する農薬散布、散水〕、〔防疫用消毒液、殺虫剤の散布〕、〔物品の洗浄〕を目的とした製品です。この使用範囲を逸脱しての使用が原因での事故、許可なく改造、分解を行い、それに伴って生じた事故に関しては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

## ■機械を他人に貸すとき

●取扱方法をよく説明します。機械に貼ってある ▲ (安全注意マーク) 印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように、機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。納入指導を受けてない家族にも同じように、説明してあげてください。

## ■国際単位について

●本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備考
面 積	[m <sup>2</sup> ] (平方メートル)	10000[m <sup>2</sup> ]=1[ha]=100[a] =10反歩=3000坪	[a] (アール)、[ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回 転 速 度	[rpm] (回毎分) [min <sup>-1</sup> ] (毎分)	1[min <sup>-1</sup> ]=1[rpm]	[rpm]	※②
力	[N] (ニュートン)	9.8[N]=1[kg f]	[kg f] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8[N・m]=1[kg f・m]	[kg f・m]	
圧 力	[Pa] (パスカル) [N・m <sup>-2</sup> ] (ニュートン毎平方メートル)	0.98[MPa]=10[kg f/cm <sup>2</sup> ] 9.8[Pa]=1[mmH <sub>2</sub> O]	[kg f/cm <sup>2</sup> ] [mmH <sub>2</sub> O]	
工 率 ・ 動 力	[W] (ワット)	735.5[W]=1[PS] 9.8[W]=1[kg f・m/s]	[PS] [kg f・m/s]	

※注意事項 ①土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

---

<b>1</b>	<b>▲</b> 安全に作業するために	3
<b>2</b>	各部のなまえとはたらき	5
<b>3</b>	<b>▲</b> 警告ラベルの取扱い	9
<b>4</b>	主 要 諸 元	10
<b>5</b>	運転前の準備	11
<b>6</b>	始 業 点 検	12
<b>7</b>	給 水	12
<b>8</b>	エンジンの始動・停止のしかた	13
<b>9</b>	噴 霧 点 検	15
<b>10</b>	薬 剤 調 合	15
<b>11</b>	散 布 作 業	16
<b>12</b>	散 布 終 了	17
<b>13</b>	散布作業終了後	17
<b>14</b>	保 守 点 検	18
<b>15</b>	給 油 一 覧 表	19
<b>16</b>	長期保管の方法	19
<b>17</b>	故 障 診 断	20

# 1 ▲安全に作業するために

## (1) はじめに

ご使用前に必ず、この取扱説明書と安全作業説明書、及び薬剤の取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。

安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で、▲危険、▲警告、▲注意、注意として、その都度取り上げています。

### ▲警告

火災の恐れがありますので、引火性の強い薬剤は使用しないでください。

## (2) こんな人は散布作業をしてはいけません

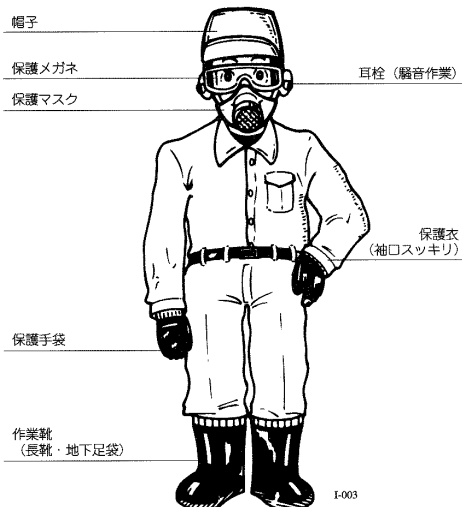
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気を帯びた人
- 妊娠している人
- 負傷中の人・薬物による影響を受けやすい人
- 若年者（15歳未満）
- 未熟練者



I-002

## (3) 作業に適した服装をします

### 適正な保護具を使用します



I-003

### ▲警告

保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。

## (4) 運転前の注意

- 安全作業説明書、セット動噴の取扱説明書及びエンジンの取扱説明書をよく読んで機械の操作に慣れて正しい安全作業を行ってください。
- 使用する薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み正しい安全作業をしてください。
- 本機は重量物です。積み降ろしする場合に無理な姿勢で持ち上げたり、一人で作業しないでください。腰など痛めることがあります。
- 無用な人は散布作業の現場に近づけないでください。事故を起こす原因になります。
- 散布計画を立て、薬剤は余らないように調合してください。
- 作業中の危険、トラブル防止の為に必ず始業点検を行ってください。(始業点検:12パージ)
- ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気厳禁で取り扱ってください。
- 燃料の補給は屋内や、換気の悪いところではしないでください。
- 燃料の補給はエンジンを停止し、冷えてから行ってください。燃料、オイルがこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。火災の原因になります。
- 燃料の入れすぎは危険です。タンク上部に数センチの空間を開けてください。
- 配線及び、マフラーやエンジン周辺にごみや燃料の付着、ホコリの堆積があると火災の原因になりますので取り除いてください。
- 点検、調整、清掃時には必ずエンジンを停止してから行ってください。
- カバーを外して運転しないでください。

## (5) トラック荷台への搭載及び固定方法

- 自動車などによる運搬時は、燃料を抜取り機械が転倒しないようロープなどで固定しておきます。
- ロープは必要以上に強くかけないでください。また、バランスよく引っ張ってください。故障の原因になります。

- トラックのあおりがマフラー排気口より高い場合にはあおりを倒してください。
- 運転中に排水ホースが暴れてタンクから飛び出さないように、バンドで吸水ホースに固定します。

## (6) エンジンの始動

- 密閉した、また通気の悪い場所では運転しないでください。ガス中毒になる恐れがあります。

## (7) 運転中の注意

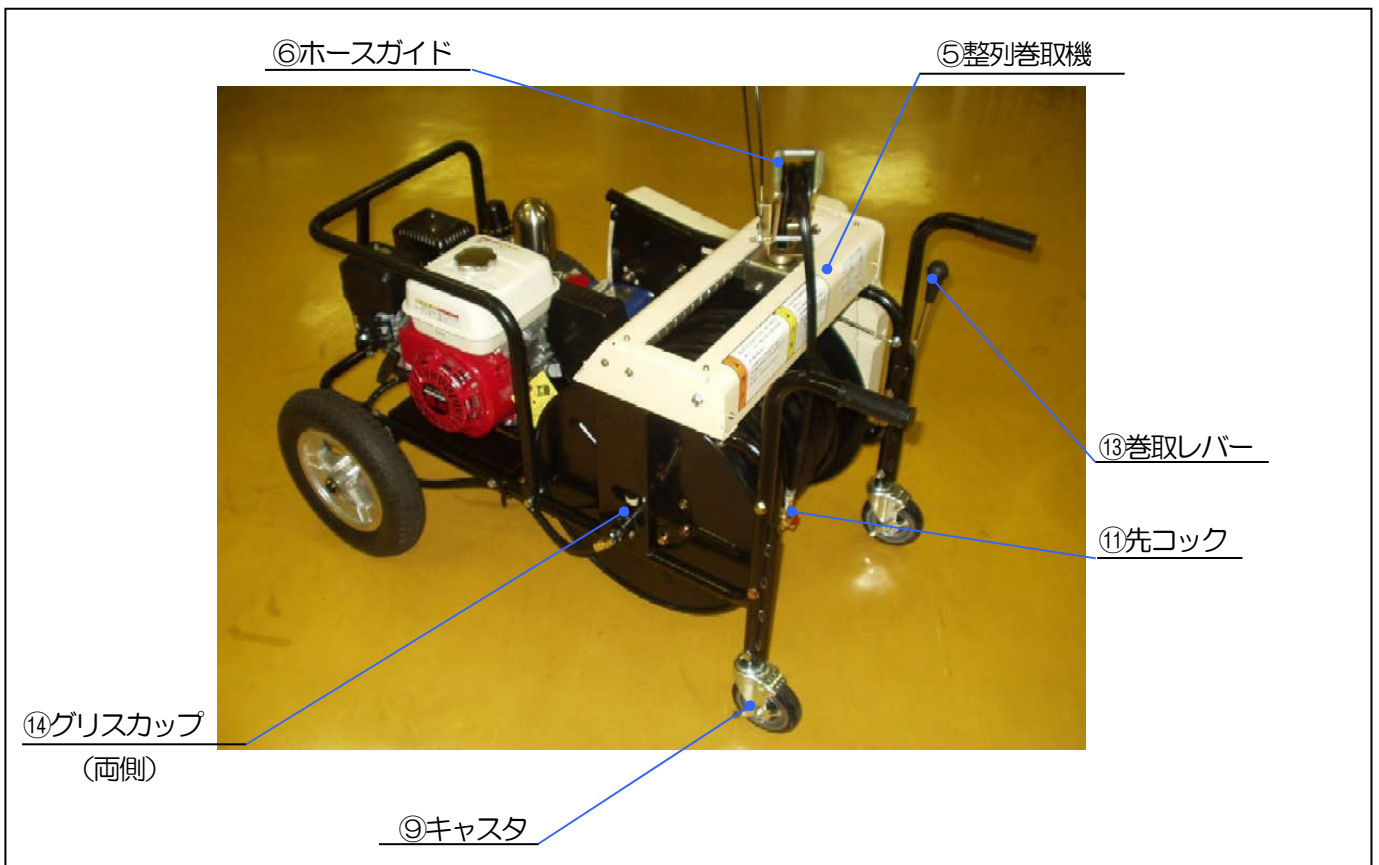
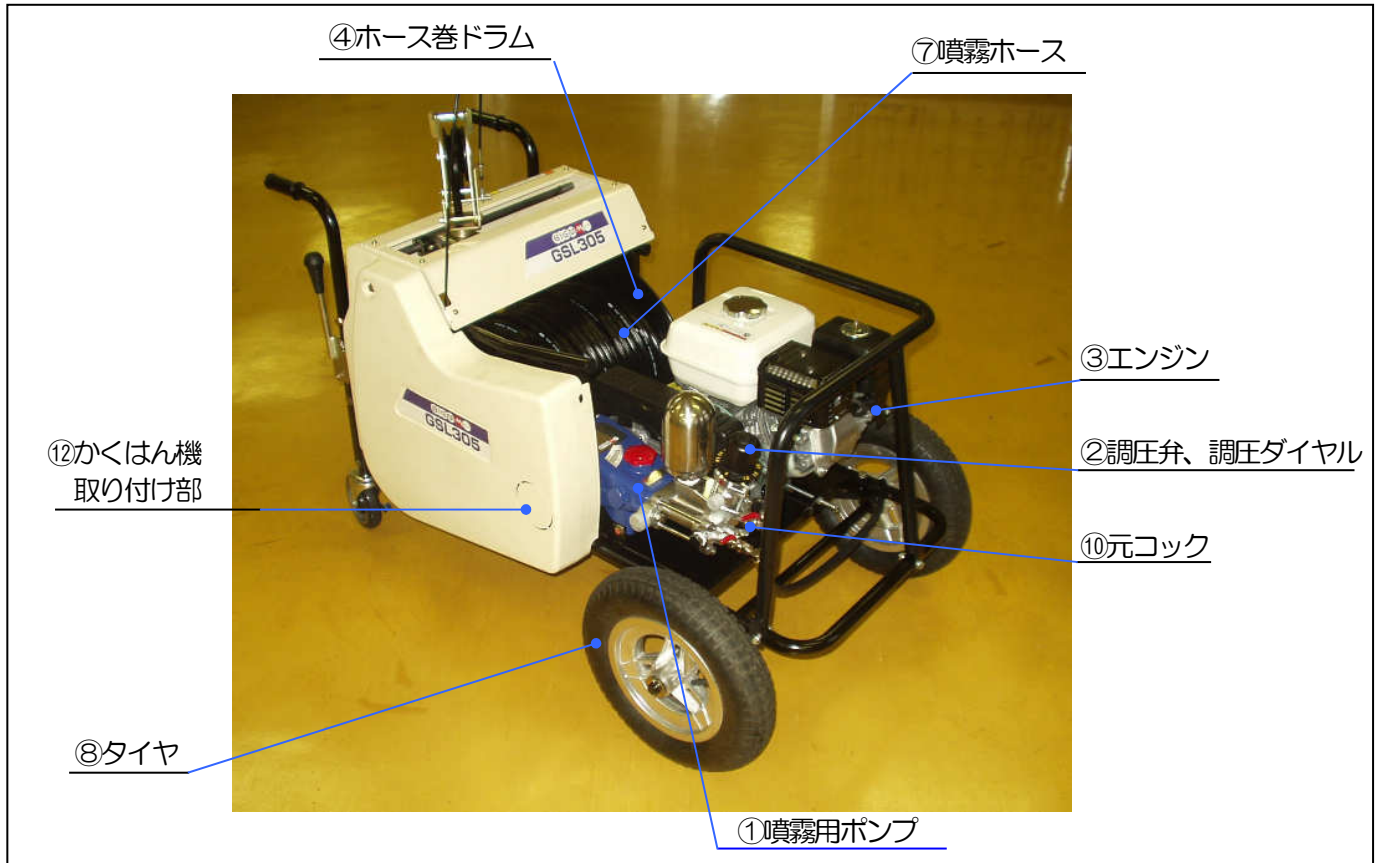
- ホースを巻き取る時は、安全を確認してから巻取操作をしてください。
- スイッチ、コック(弁)等をむやみに操作しないでください。
- 作業員以外は、散布作業の現場に近づけないでください。薬液を浴びる危険があります。
- ホースガイド、ホース巻ドラム、カバー内部には回転物があります。手や物を入れたり近づけたりしないでください。
- エンジン運転中及び、停止直後はマフラーやマフラーカバー及びエンジン本体は熱くなっていますから、手、肌、衣服などが触れないようにしてください。やけどの原因になります。
- ローラの近くでは、ホースを持たないでください。ローラに挟まれる危険があります。
- ホースが残り少なくなったらエンジンを低速にし、ゆっくり巻き取ってください。

## (8) 使用後の注意

- 使用後の機体、散布装置は十分に洗浄してください。

## 2 各部のなまえとはたらき

(1) 各部のなまえ (本機はGSL305-Hとなっています。)



## (2) 付 属 品

部品番号	名 称	サイズ及び備考	GSL205-H	GSL305-H
			個	数
105936 122017	吸水ホース 吸水ストレーナ組立	19×3m 40メッシュ	1 1	1 1
104344	排水ホース	13×3m	1	1
811343	エクステンション		1	1
107107	バ ン ド	排水ホース固定用	1	1
549894	取扱説明書	GSL205-H GSL305-H	1	1
533126	安全作業説明書 保 証 書	大型セット動噴	1 1	1 1
549888	取扱説明書	エンジン	1	1
105891	ボールコック	PF1/4×PF1/4	1	1
059034	ヨリモドシカナグ	PF1/4	1	1

※ エンジンの取扱説明書は、搭載エンジン用の物が一部のみの付属となります。

※ ノズル・かくはん機・ポリタンク等、希望されるものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

## (3) オプション (別売)

部品番号	名 称	サイズ及び備考	GSL205-H	GSL305-H
104213	Vプーリ	カクハン軸取付用	1	1
199763	レバーマトメ	巻取レバー横方向	1	1



#### (4) 各部のはたらき

##### ① 噴霧用ポンプ

吸水ホースより薬液を吸い込み、加圧して噴霧ホース、ノズルへ送ります。圧力は②調圧弁で調整します。ノズルより吐き出されない液は、排水ホースよりタンクへ戻されます。

##### ② 調 圧 弁

①噴霧用ポンプで加圧される圧力の調整をします。調整は調圧ダイヤルを回して行います。ダイヤルの数値は圧力（単位 MPa）の目安です。



調圧弁／調圧ダイヤル

##### ③ エ ン ジ ン

噴霧用ポンプ、ホース巻ドラムを回す動力源です。詳しくはエンジンの取扱説明書を参照ください。

##### ④ ホース巻ドラム

噴霧ホースをエンジンの動力で巻き取ります。

#### ▲注意

運転中は、はさまれる危険があります。  
手や物を近づけないでください。

##### ⑤ 整 列 巻 取 機

ホース巻ドラムにホースを整然と巻き取ります。

##### ⑥ ホースガイド

ホースを伸ばす方向にガイドローラを向け、ホースを案内する役目とホースの引出し方向を調整することができます。

#### ▲注意

運転中は、はさまれる危険があります。  
手や物を近づけないでください。

#### ▲注意

道路よりもほ場がかなり高い位置で使用すると、ホース巻ドラムのブレーキに負担がかかり、寿命が短くなります。このような場所では機体をなるべく高い位置に設置して使用してください。

##### ⑦ 噴霧ホース

噴霧用ポンプで加圧された薬液をノズルに送ります。

#### ▲警告

噴霧ホースを腰ベルト等で身体に固定しないでください。万一、巻取機が停止しないことがあると大変危険です。

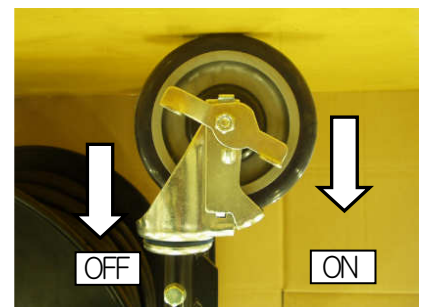
##### ⑧ タイヤ

タイヤの空気圧は 175 kPa に調整してください。

##### ⑨ キャスタ

後輪はロック機能付自在キャスタになっていますので、方向転換がスムーズに行えます。

キャスタのペダルを下げることで、タイヤの回転を ON（固定）・OFF〔解除〕することができます。

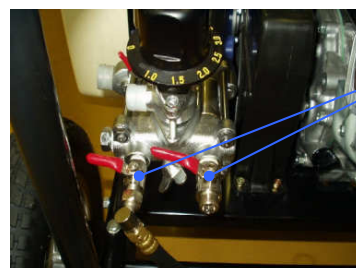


##### ⑩ 元コック

噴霧用ポンプで加圧された薬液の取り出し口です。

#### ▲注意

元コックを開ける時は安全を確認してから行ってください。



元コック



⑪ 先コック

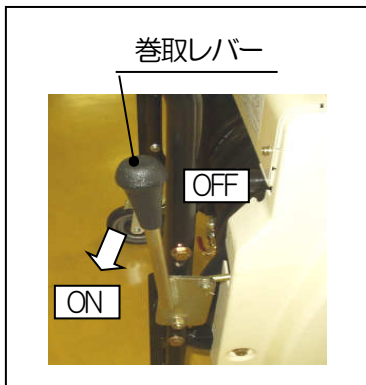
散布作業中にノズルの吐出しを止めるコックです。

⑫ かくはん機（オプション（別売））取付部

フレキシブルかくはん機を取り付ける所です。

⑬ 巻取レバー

噴霧用ポンプ回転中に巻取レバーを〔ON〕側に倒すとホースの巻取ができます。手を離すとレバーが〔OFF〕に戻り巻取を停止します。



**▲注意**

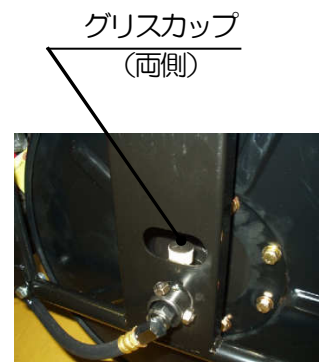
- 1.ホースを巻き取る時は安全を確認してから行ってください。
- 2.ローラーの近くではホースを持たないでください。ローラーにはさまれる危険があります。

**▲注意**

- 1.ホース巻取り中に異常を感じたらすぐに巻取をやめ、原因を取り除いてください。
- 2.ホースを巻き取る時は、ホースに圧力をかけて巻き取ります。圧力を抜いて巻き取ると、ホースがつぶれて薬液の流れが悪くなるばかりでなく、ホースの寿命も短くなります。
- 3.ホースをつないで使用すると機械を壊す原因となります。
- 4.ホースが残り少なくなったら、エンジンを低速にし、ゆっくり巻いてください。

⑭ グリスカップ

ホース巻ドラムの軸受にグリスを補給するためのものです。カップを時計方向に回して補給します。



**吸水ホース**

薬剤タンクから噴霧用ポンプが薬液を吸入するホースです。

**吸水ストレーナー**

薬液の不純物、固形物を濾しとります。

**排水ホース**

ノズルから吐き出されない薬液をタンクに戻すホースです。

### 3 ⚠️ 警告ラベルの取扱い

#### ⚠️ 注意

1. いつも汚れや泥をふき取り、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
2. 警告ラベルが損傷したら、最寄の販売店に注文し、新しい物と交換してください。
3. 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しいラベルを取り外した部品と同じ場所に貼ってください。

※ 本機には次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解した上で作業してください。



①

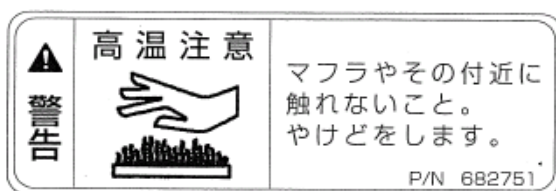


②

① 291837

 敬 告	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 服装は体に合った物を着用してください。保護衣・保護マスク・保護メガネ・ゴム手袋・作業靴（長靴、地下足袋）等を用意し安全な服装で作業すること。</li> <li>2. ガス中毒防止のため、換気の悪い場所では運転しないこと。</li> <li>3. 飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接給水は絶対にしないこと。</li> <li>4. 散布計画を立て、薬剤は余らないようにすること。</li> </ol>	 注 意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用する薬剤の取扱説明書を良く読んで正しく使用すること。</li> <li>2. 無用な人は散布作業の現場に近づけないこと。</li> <li>3. 機械の転倒事故防止のため、ロープ等で固定して使用すること。</li> <li>4. ホースを巻取る時は安全を確認してから行なうこと。</li> <li>5. 点検、調整、清掃時には必ずエンジンを停止すること。</li> <li>6. エンジン回転中はみだりにスイッチ、コックを操作しないこと。</li> <li>7. カバー内には手や物を入れないこと。</li> <li>8. カバーを外しては散布作業しないこと。</li> </ol> <p style="text-align: right; font-size: small;">P/N 291837</p>
------------	--	------------	--

② 682751



## 4 主 要 諸 元

名 称		GSL205-H	GSL305-H
単 体	寸 法 (長さ×幅×高さ) (mm)	1250×760×885	
	乾 燥 質 量 (kg)	91	93
噴 霧 用 ポ ン プ		GS205	GS305
回 転 速 度 (min <sup>-1</sup> )		720	1050
吸 水 量 (L/min)		20	30
最 高 圧 力 (MPa)		5.0	5.0
エ ン ジ ン		GX120	GX160
形 式		空冷4サイクル OHV式ガソリンエンジン	
最 大 出 力 kW/min <sup>-1</sup>		2.9/2000	4.0/2000
始 動 方 式		リコイルスタータ	
ホ ー ス 巻 取 機		自動整列巻取	
巻取クラッチ形式		ベルトテンションクラッチ	
巻取ブレーキ形式		ホースリールストッパ式	
巻取部伝導方式		Vベルト・チェーン	
車 輪(前)	呼び	3.25×3.00-8 2PR	
	空気圧kPa (最大)	175	
車 輪(後)		Φ125 ロック機能付ソリッド自在キャスト	

- 動力噴霧機の性能はエンジンの定格仕様時であり、動力噴霧機単体の性能は、クランクケース上の貼りマークに表示してあります。
- 改良のため予告なく諸元を変更することがあります。

## 5 運転前の準備

### (1) ノズルの選定

ノズルは市販品を御使用ください。噴霧用ポンプの最大吸水量の1割以上を余水として確保できるノズルを使用してください。(但し、噴霧ホースのサイズ及び長さによってヘッドロスが生じるため、使用できるノズルは制約されます。詳しくは、**9**噴霧点検(P15)を参照してください。

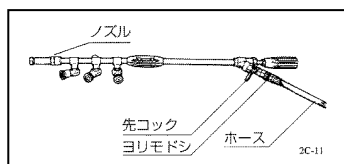
搭載されているホース及びネジサイズはΦ8.5×100m, G1/4(ISO)です。

ノズルを新たにご購入される場合には、同サイズをご指定ください。

### (2) ノズルの取付

噴霧ホースの先端に、ヨリモドシ、先コックを取り付けます。その先にノズルを取り付けます。

その際、水漏れのないようパッキンを確認してから確実に締めてください。あまり強く締めるとパッキンがはみ出たり、破れたりするので確実に締めてください。



### (3) エンジン

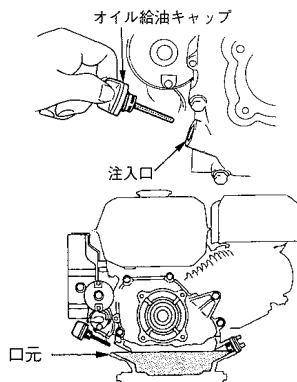
1.使用前にエンジンのクランクケースにエンジンオイルを入れます。

(出荷時、エンジンオイルは入っておりません。)

(SE 級以上 SAE10W-30)

GX120	0.6L
GX160	

2.エンジンの燃料タンクに自動車用レギュラガソリンを入れます。



### ⚠危険

- 給油時は必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 給油時に火気を近づけると火災の危険があります。

詳しくは、エンジンの取扱説明書をお読みください。

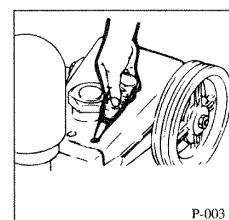
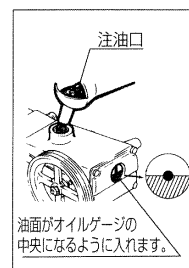
### (4) 噴霧用ポンプ

1.使用前に噴霧用ポンプのクランクケースにエンジンオイルを入れます。(出荷時、オイルは入っておりません。)

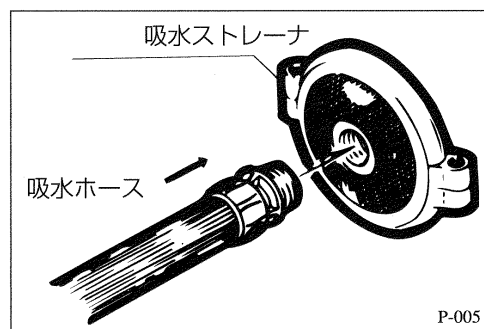
(SJ 級以上 SAE10W-30)

GS205	0.6L
GS305	

2.噴霧用ポンプのシリンダ元部にオイル(3~5滴)を3ヶ所に注油します。



3.噴霧用ポンプに吸水ホース、排水ホースを接続します。その際、パッキンが確実に入っていることを確認してください。吸水ホースの先端には吸水ストレーナを取り付け、薬剤タンクの底に密着させて固定します。排水ホースは、暴れてタンクから飛び出さないように付属のバンドで確実に固定してください。



### ⚠注意

薬剤タンクから吸水ホース・排水ホースが飛び出す恐れがある場合には、ホースの先端にオモリを取り付け、薬剤タンク内に沈めてください。

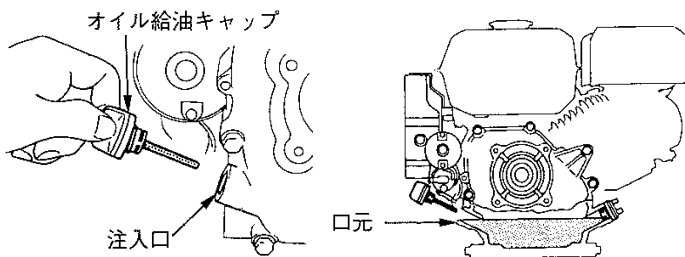
### ⚠注意

吸水ホースの接続が不完全な場合は、空気を吸い、吸水しない、異常振動が出る等して機械の寿命を縮めることがあります。また、吸水ホースが折れたり、つぶれたりした場合にも同じようになります。

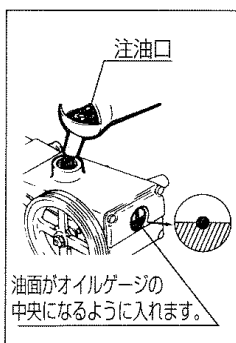
## 6 始 業 点 検

事故を未然に防ぐには、機械の状態をいつも知っていることが大切です。始動前には必ず下記の点検を行ってください。

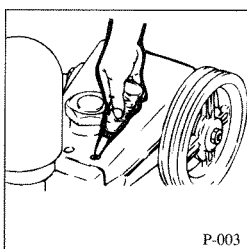
### 1. エンジン、クランクケース内のエンジンオイル



### 2. 噴霧用ポンプクランクケース内のオイルの点検・補給。



### 3. 噴霧用ポンプのシリンダ元部への注油。



4. エンジン燃料タンク内のガソリン量の点検・補給。
5. エンジンエアクリーナーエレメントの清掃。
6. 噴霧用ポンプ吸水ホースのパッキングが正しく装着されているか。また、折れ、つぶれ、傷がないかの点検。
7. 噴霧用ポンプ吸水ストレーナの清掃。
8. ノズルの摩耗、詰まりの点検。
9. ボルト、ナット、ホース類の緩みの点検。  
緩んでいたら増締め。
10. ホースの損傷の有無。
11. 電気配線被膜の損傷、抜けの確認。
12. 水漏れ・油漏れの点検。
13. タイヤの空気圧。175kPa

### 警告

- 傷害事故防止のために始業点検や整備を行う際には、必ずエンジンを停止して行ってください。
- エンジンを回して行う点検調整は、必ず最寄りの販売店に依頼してください。

## 7 給 水

薬剤タンクに必要な量の水を入れます。

### 警告

飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は、絶対に行わないでください。法律により罰せられる場合があります。

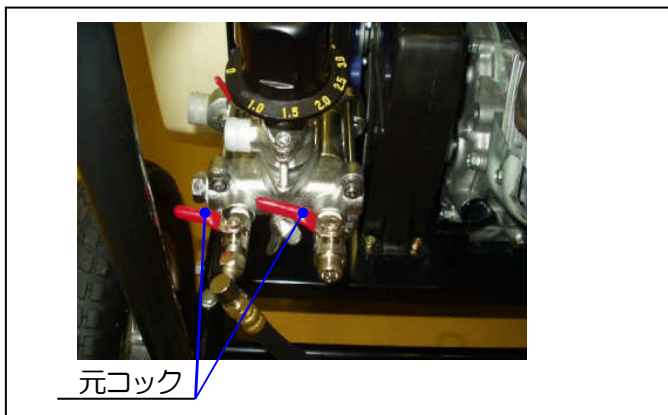
### 注意

給水する度に吸水ストレーナを掃除してください。

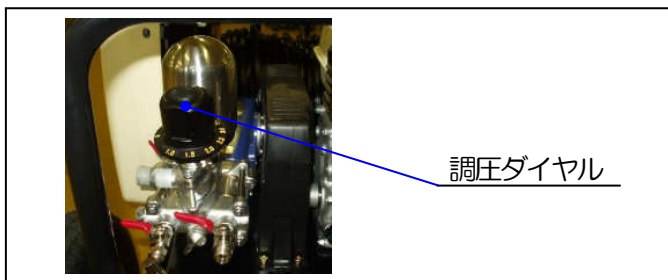
## 8 エンジンの始動・停止のしかた

### (1) エンジン始動のしかた

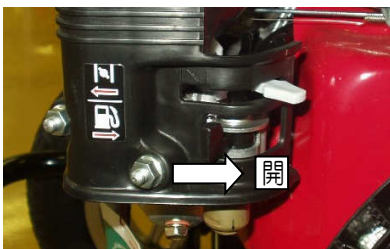
1. 噴霧用ポンプの元コック、及び噴霧ホース先端の先コックを閉じます。



2. 噴霧用ポンプの調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。



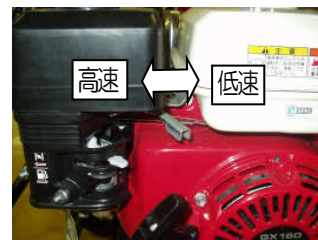
3. エンジンの燃料コックを開きます。



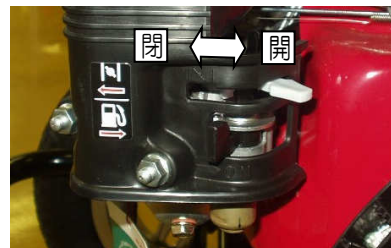
4. エンジンのスイッチを〔ON〕にします。



5. 速度調節レバー(スロットルレバー)を〔中速〕にします。

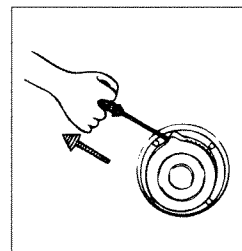


6. チョークレバーを〔閉〕にします。



※ エンジンがよく暖まっている時は、チョークレバーの操作は不要です。

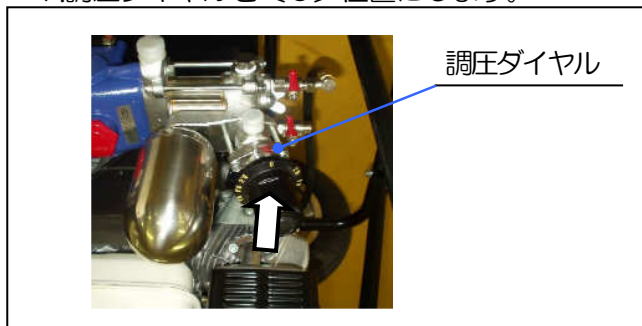
7. リコイルスターターハンドルを握って勢いよく引っ張ります。2～3回リコイルスターターを引いても始動しない場合は、燃料の吸いすぎとなり、始動困難となりますので、チョークレバーを〔開〕にして行ってください。



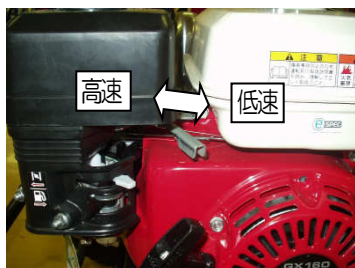
8. エンジンがかかったら、エンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に開きます。最後は全開にしてください。

## (2) エンジン停止のしかた

1. 調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。



2. 速度調節レバー(スロットルレバー)を〔低速〕にします。高速運転後は2～3分冷却運転してください。



3. エンジンスイッチを〔OFF〕にします。



4. 燃料コックを閉じます。

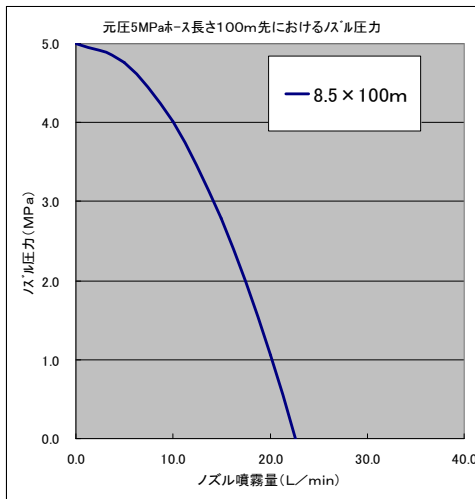




## 9 噴霧点検

薬剤を調合する前に清水で運転し、異常が無いか確認してください。

グラフは、元圧を 5.0MPa した場合のホース内径 8.5・長さ 100m のノズル圧力と噴霧量の関連値を示しています。(下記グラフは GSL205-H の例となっています。)



例えば、ノズル圧力 4 MPa とした場合、約 10L/min が最大噴霧量ということになります。このグラフを参考にノズルを選定してください。

- (1) エンジンを始動し、噴霧用ポンプが回りだし吸水を始め、排水ホースから水が出てきます。30 秒くらい運転しても水が出てこなかったり、排水に大きな気泡が混じるようであれば吸水接続部のゆるみ、パッキン及び吸水ストレーナの目詰まりを点検してください。

- (2) エンジンの速度調節レバーを高速にします。
- (3) 調圧ダイヤルを希望する数値に合わせます。
- (4) 噴霧用ポンプの元コックを開けます。
- (5) ノズルを安全な方向に向けて先コックを開けます。
- (6) ホースの接続部から水漏れ等異常がないか点検します。
- (7) ノズルからボタ落ち等異常がないか点検します。
- (8) ノズル圧をチェックして調圧ダイヤルで希望する圧力に調整します。ノズル圧力は通常の散布では、1.5~2.0MPa が適当です。
- (9) 先コックを閉じます。
- (10) 噴霧用ポンプの元コックを閉じます。
- (11) 調圧ダイヤルを〔0〕にします。

### ▲ 注意

機械全体の振動に注意して、特に振動の大きい回転数(共振点)では使用しないでください。

## 10 薬剤調合

- (1) 調合は専用容器で、必要な量だけ調合します。
- (2) 水和剤はあらかじめ少量希釈してから薬剤タンクに入れます。
- (3) 薬剤タンクに必要な量の水を入れた後に薬剤を入れてください。
- (4) 薬剤を外部に漏らさないようにして薬剤タンクに入れ、十分かくはんします。噴霧用ポンプを回しておく排水でかくはんする

こともできます。希望付属品のフレキシブルかくはん機を使用すると効率良くかくはんできます。

- (5) 展着剤を使用する時は、泡立ち防止のため最後に入れてください。

### ▲ 注意

使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで正しく調合してください。

# 11 散布作業

## 散布作業時の注意

1. 散布作業はできるだけ早朝、または夕暮れ時の風のない時間を選んで行います。
2. 薬液は残らないように必要な量だけ作ります。
3. 散布順路を決め、障害物はあらかじめ撤去しておきます。
4. 散布にあたっては風向きを考え、薬液を浴びないように注意します。
5. その他の注意事項は **1**安全に作業するために (P3) と別冊の安全作業説明書をよく読んでください。

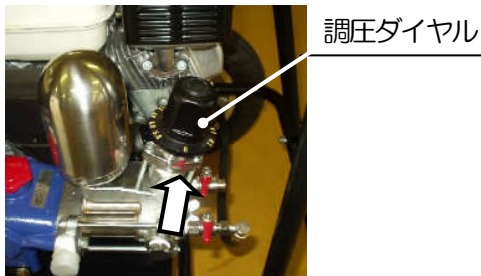
## 警告

噴霧ホースを腰ベルト等で身体に固定しないでください。万一、巻取機が停止しない事があると大変危険です。

## 注意

無用な人は散布作業の現場に近づかないでください。薬剤を浴びる危険があります。

- (1) エンジンを始動し、速度調節レバー(スロットルレバー)を〔高速〕にします。
- (2) 調圧ダイヤルを希望する数値に合わせ加圧します。



- (3) 先コックが閉じていることを確認してから噴霧用ポンプの元コックを開けます。



- (4) ホースを必要な長さだけ引き出します。
- (5) 先コックを開けてノズルより薬液を噴霧します。ノズルから噴霧している時に排水ホースからの水量が噴霧用ポンプ全吸水量の1～2割になるように、エンジンの回転を調整します。少なすぎると調圧弁の寿命を縮めます。

## 注意

- 噴霧点検した時の清水をノズルから出し切り、それから対象物に散布してください。
- 機械全体の振動に注意して、特に振動の大きい回転数(共振点)では使用しないでください。本機各部が破損する恐れがあります。

- (6) ホースを巻き取る時は、巻取りレバーを〔ON〕にします。巻取りレバーから手を放すと巻取りは停止し、ホース巻ドラムにブレーキがかかります。

## 注意

- ホースを巻き取る時は、巻き込まれ、転倒、引っかけ等の事故のないように安全を確認してから行ってください。
- ローラの近くではホースを持たないでください。ローラに挟まれる危険があります。
- ホース巻取り中に危険を感じたらすぐに巻取りレバーから手を放してください。巻き込まれて、けがをする危険があります。
- ホースが残り少なくなったら、エンジン回転数を下げ、巻取りレバーを少しゆるめて、ゆっくり巻いてください。

## 注意

- ホース巻取り中に異常を感じたら、すぐに巻取りをやめ、原因を取り除いてください。
- ホースを巻き取る時は、ホースに圧力をかけて巻き取ります。圧力を抜いて巻き取ると、ホースがつぶれて薬液の流れが悪くなるばかりでなく、ホースの寿命も短くなります。
- ホースをつないで使用すると機械を壊す原因になります。
- ホース巻ドラム内にホースたるみがある場合は、ホースのたるみを取り除いてから、巻取りをしてください。

## (7) 散布作業中の注意事項

### 注意

- 作業中は異常音、液漏れ等に注意し、もし異常があったら運転を中止し、処置してください。
- 1時間以上連続運転すると噴霧用ポンプ空室の空気がなくなり、ホースが激しく振れる事があります。その時には、エンジンを低速回転にし、調圧ダイヤルを〔0〕にして、吸水ストレーナを空中に出して、10秒程度空気を吸わせてください。その後、噴霧用ポンプの吸水を確認してから、作業を続けてください。
- 薬剤タンクの残量に注意し、吸水しなくなったら、すぐにエンジンを停止してください。噴霧用ポンプの空運転を長時間続けると損傷する場合があります。

散布途中で薬液がなくなった場合は、調圧ダイヤルを〔0〕位置にし、エンジンを低速回転にしてホースを巻き取ります。(この場合、ホースがドラム内でつぶれていますので、ホースの変形を取り除いてから、次の散布作業をしてください。)

## 12 散布終了

- (1) 先コックを閉じます。
- (2) ホースを巻き取ります。
- (3) 元コックを閉じます。
- (4) 調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。
- (5) エンジンを停止します。

## 13 散布作業終了

- (1) 吸水ストレーナを洗浄します。
- (2) 薬剤タンクに清水を入れ、噴霧用ポンプを運転し、ノズルから清水を噴霧し、配管内部の洗浄運転をします。
- (3) 薬剤タンクが空になったら、ノズルを先コックより外し、エンジンを低速回転させ、噴霧用ポンプ、ホース内の水抜き運転をします。
- (4) 調圧ダイヤルを〔0〕位置にします。
- (5) エンジンを停止します。
- (6) 燃料コックを閉じます。
- (7) 噴霧用ポンプの元コックは開けておきます。

### ▲ 注意

1. 使用後の機体・散布装置は十分洗浄してください。
2. 除草剤を使用した場合は、特に入念に配管内部の洗浄を行ってください。

# 14 保守点検

機械を常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って定期的に保守点検を励行しましょう。

運転時間		毎日	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと
エンジン	オイルの点検・補給	○			
	オイルの交換	初回20時間		○	
	点火プラグの交換				○
	エアークリーナーエレメントの清掃		○		
	燃料フィルタの清掃			○	
	点火プラグ隙間の調整			○	
	シリンダヘッドのカーボン除去	※500時間ごと			
	気化器・タンクの清掃			※○	
	弁隙間の調整				※○
噴霧用ポンプ	オイルの点検・補給	○			
	オイルの交換	初回50時間		○	
	シリンダ元部への注油	○			
	ピストン部の点検			※○	
	調圧ダイヤルの点検			※○	
	ストレーナの清掃・点検	毎給水時			
整列巻ナピアセン軸の清掃・グリス塗布		○			
ホースガイドのローラー軸のオイル注油		○			
ワイヤの点検		○			
Vベルトの点検		初回50時間		○	
チェーンの点検				○	
ホースのキズや割れの点検		○			
水漏れ・油漏れの点検		○			
タイヤの点検(空気圧 175KPa)		○			
ノズルの詰まり・摩耗の点検		○			

■ エンジンについては、エンジンの取扱説明書に従ってください。

※印は最寄の販売店に依頼してください。

## ▲ 注意

1. 点検整備を行う時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
2. エンジンをかけた状態で、点検、整備を行う必要がある場合は、自分で行わず、必ず最寄の販売店のサービス担当者に依頼してください。

## 整備点検の仕方

(1) エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書を良く読んで整備してください。

(2) 噴霧用ポンプのオイル交換

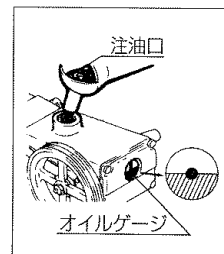
- ① オイルドレンを外してオイルを抜いてください。
- ② 給油一覧表を見て、新しいオイルを注油口より、油面がオイルゲージの中心になるように入れます。

(3) ナピアセン軸の清掃・グリス塗布

泥等をきれいにふき取り、グリスを全面に塗布します。

(4) ワイヤの点検調整

ワイヤのゆるみ、損傷等がないか点検します。ワイヤの調整はお買い上げの販売店に依頼してください。



(5) Vベルトの点検・調整

亀裂等がないか点検し、損傷があったら交換してください。Vベルトの張り調整はお買い上げの販売店に依頼してください。

(6) ホースの点検

ホースに割れ、キズがあれば交換します。

(7) 電気配線

配線被覆の損傷、端子の抜けを点検します。

## 15 給油一覽表

給油項目		使用油脂	容量	初期交換時間	定期交換及び注油 (時間ごと)
燃料	GX120	自動車用	2.5L		
	GX160	レギュラーガソリン	3.6L		
エンジンオイル	GX120	ガソリン用SE 級以上	0.6L	20	100
	GX160	SAE10W-30			
噴霧用ポンプ	GS205	SJ 級以上 SAE10W-30	0.6L	50	100
	GS305				
噴霧用ポンプシリンダ元部	3~5 滴		—		
ホースガイドローラ軸部	適量		—	20	
整列巻取機ローラ軸部			—	20	
整列巻取機ナピアラセン軸			—	20	
ホース巻ドラム軸受部			—	20	
整列巻駆動チェーン		万能グリス (出光興産 DN エポネックス SR No2) 相当品	—	100	

## 16 長期保管の方法

長期間使用しない場合には、次の要領で手入れを行います。

- |  |
|--|
| ( 1 ) 保守点検項目を一通り確認します。                           |
| ( 2 ) 不具合箇所を整備します。                               |
| ( 3 ) 13 散布作業終了後(P17)の要領で、清掃運転と水抜きを行います。         |
| ( 4 ) 凍結破損防止のため、水抜きを十分に行い、配管の一部を外し、コックは開けておきます。  |
| ( 5 ) 整列巻スライド軸、ナピアラセン軸の泥等を落とし、グリスを塗り錆止めをします。     |
| ( 6 ) エンジン燃料タンクのガソリンを抜いてください。                    |
| ( 7 ) キャブレターフロート室のガソリンを抜いてください。                  |
| ( 8 ) 燃料コックを閉じてください。                             |
| ( 9 ) リコイルスターターハンドルを引いて、重く手応えのある所(圧縮位置)で止めてください。 |
| (10) 塗装のはがれた部分は、サンドペーパー等で錆を落とし、塗料を塗ります。          |
| (11) 調圧ダイヤルを〔0〕にします。                             |
| (12) エンジンが冷えてからカバーをかけて、湿気の少ない平坦な場所を選んで格納してください。  |

# 17 故 障 診 断

故障かな?と思った時は、次の表に示す点検を実施してください。  
それでも直らない場合は、お買上げの販売店に連絡してください。

## (1) 巻 取 部

状 況	点 検 箇 所	処 置
ホース引出しが重い ホース引出しができない	① ホースが乱雑に巻かれていませんか。また、整列巻取機とホース巻ドラムのホース位置がずれていませんか。	きれいに巻かれている所までホースを引き出し、巻き直してください。
	② ホース巻ドラムの軸受にはグリスが十分行き渡っていますか。	グリスカップのキャップを回して、グリスアップしてください。
	③ ホースガイドのローラ軸には、オイルは注油されていますか。	オイルを注油してください。
	④ ホース巻ドラムのブレーキワイヤは張られていますか。	※ ワイヤの調整をしてください。
ホース巻取力が弱い ホース巻取ができない	① エンジンからホース巻ドラムにかかっているベルトがスリップしていませんか。	※ ベルトの調整をしてください。
	② ベルトが伸びていませんか。	※ 新品と交換してください。
ドラムに巻かれたホースがたるむ	① ホースの引き出しは、ゆっくり行っていますか。	ゆっくり引き出してください。
	② ブレーキのゴム板はすり減っていませんか。	※ 新品と交換してください。

※につきましては、最寄の取扱店、または当社営業所に調整・修理を依頼してください。

(2) 噴霧用ポンプ部

状 態		原 因	対 策
(1) 吸い込まない 吸い込みにくい	伝 動 部	ベルトのスリップ	※調整・交換
	吸水口まで	吸水ストレーナの詰まり	掃除
		吸水ストレーナの損傷・屈折・ツブレ	補修・交換
		吸水接続パッキンの異常	補修・交換
		接続不良	正しく接続
		吸水ホースの長さが長い	付属品を使用する
		吸水の揚程が高すぎる	揚程を低くする
	吸水・加圧部 (シリンダ部)	吸水弁・吐出弁にゴミ等のつまり・こう着	※掃除
		吸水弁・吐出弁の傷付・摩耗	※修正・交換
		吐出弁バネの損傷	※交換
		ピストンパッキンの破損	※交換
		オリングの破損	※交換
		シールパッキンの破損	※交換
調 圧 部	調圧ダイヤルが加圧状態になっている	減圧する	
	調圧部のこう着	※洗浄	
(2) 圧力が上がらない	吸水・加圧部	吸水量が不足している	(1)を診断
	調 圧 部	調圧弁玉・弁座の損傷	※交換
		調圧弁弁棒の不良	※調整・交換
		調圧弁バネ筒の不良	※補修・交換
(3) 吐出バルブを開くと 圧力が下がる	ノズル	ノズルの摩耗	交換
		ノズルの噴霧量が多すぎる	適正ノズルに交換
	噴霧用ポンプ	吸水量が少ない	(1)を診断
	ホース	噴霧ホースが長い	購入時のホースに 交換
		噴霧ホースが細い	
ホースの接続不良	補修・交換		
(4) 異 音		プーリーのゆるみ	増締・交換
		コンロット等のボルトのゆるみ	※増締
		ベアリングの破損	※交換
		調圧弁の損傷	※調整・交換
		空気の吸込み	点検
(5) 液漏れ、油漏れ		オリングの損傷	※交換
		シールパッキンの損傷	※交換
		オイルシールの損傷	※交換
		締付、整備不良	※分解・調整

※につきましては、最寄の取扱店、または当社営業所に調整・修理を依頼してください。



# サービスと保証について

## ■保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は、大切に保管してください。

### ▲警告

●機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

## ■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、お買い上げの販売店に連絡し、すぐに適切な整備をしてください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容           なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

機種コード	358103
機種名	GSL305-H
規格	8.5×100M
製造番号	00000000

製造番号ラベル  
(本機左側のフレームにあります)

○本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。  
年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。  
このときの整備は有料となります。

## ■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品につきましては万全を期しておりますが、万一お客様に不都合が生じた場合には、下記のフリーダイヤルへ内容を十分ご確認の上ご連絡ください。

### 機体廃棄時のお願い

本機を廃棄する場合は最寄りの取扱店、  
又は当社の営業所にお問い合わせください。

製品につきましては万全を期しておりますが、万一お客様に不都合が生じた場合には、下記のフリーダイヤルへ内容を充分ご確認の上ご連絡ください。

◆お客様相談窓口(丸山サポートセンター)

0120-898-114

ご利用時間 9:00～17:00 (土、日、祝日を除く)

製造元： **株式会社丸山製作所**

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL03(3252)2281 (営・代表)

＜丸山サポートセンター＞フリーダイヤル 0120-898-114

P/N 549894-02 2007. 11